

令和4年度マダイ中間育成の記録

今年度の伊豆地域のマダイ中間育成は、田子で2022年6月7日、網代で6月8日に、種苗を海上生簀に搬入する沖出しから開始されました。両地区の沖出し尾数は、網代が40.5万尾、田子22.5万尾であり、計画どおりの尾数が沼津の温水利用研究センターから供給されました。

今年度は、田子、網代ともに沖出しから約1週間後に滑走細菌症(図1)が発生し、特に田子では多くの個体が病気によってへい死しました(図2)。中間育成中の1時間ごとの測定水温(図3)から、病気が初めて確認された時期は、沖だし後に順調に上昇していた水温が急に低下したときに起こったことがわかりました。このことから水温の急激な低下と今回の滑走細菌症の発生が関係しているのではないかと考えています。

魚病発生後、田子、網代ともに飼育担当者の迅速な対応により、網代では数日のうちに、田子では約10日後に病気が沈静化しました。その後は、病気の発生などのトラブルはなく育成しました。沖出し後の種苗は、およそ40日間の飼育により、放流目標サイズの尾又長60mmを超えました。そこで、網代で7月15日、田子で7月21日に放流尾数を確認する計数作業が行われました(図4)。今年の歩留まりは、網代が73.1%、田子が54.7%でした。また、放流前の平均尾又長は、網代で65.3mm(7月15日測定)、田子で69.8mm(7月21日測定)であり、平均体重(同日測定)は、網代で7.1g、田子で7.3gでした。田子では、昨年度よりも歩留まりが低かった(昨年度68.4%)一方で、平均尾又長は昨年度よりも大きくなりました(昨年度67.5mm, 育成開始から49日後測定、今年度69.8mm, 育成開始から44日後測定)。尾又長の度数分布比較(図5)からも今年度の田子では比較的大きな個体が育成されたと考えています。



図1 滑走細菌症に感染したマダイ

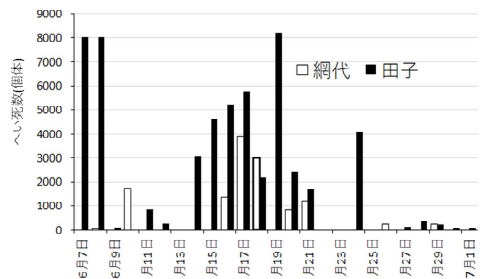


図2 田子と網代のマダイへい死数
(飼育担当者の飼育日誌から)

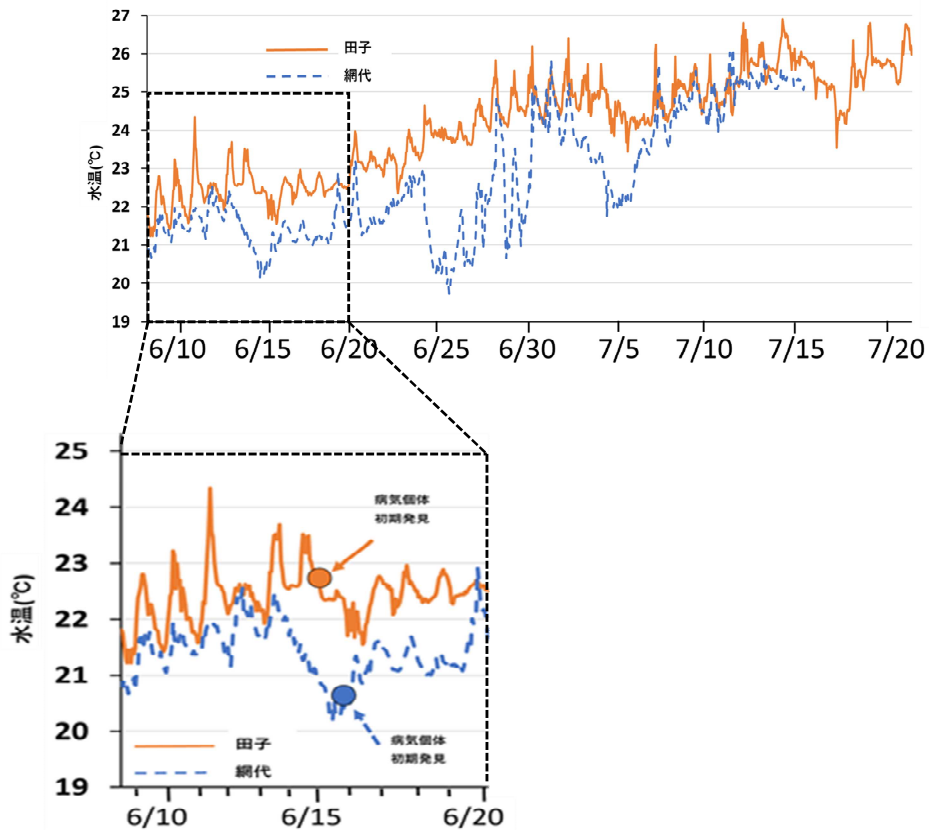


図3 田子・網代の水温変化 (上) 育成期間全体 (下) 魚病発生時



図4 計数の様子 (左) 網代 (右) 田子

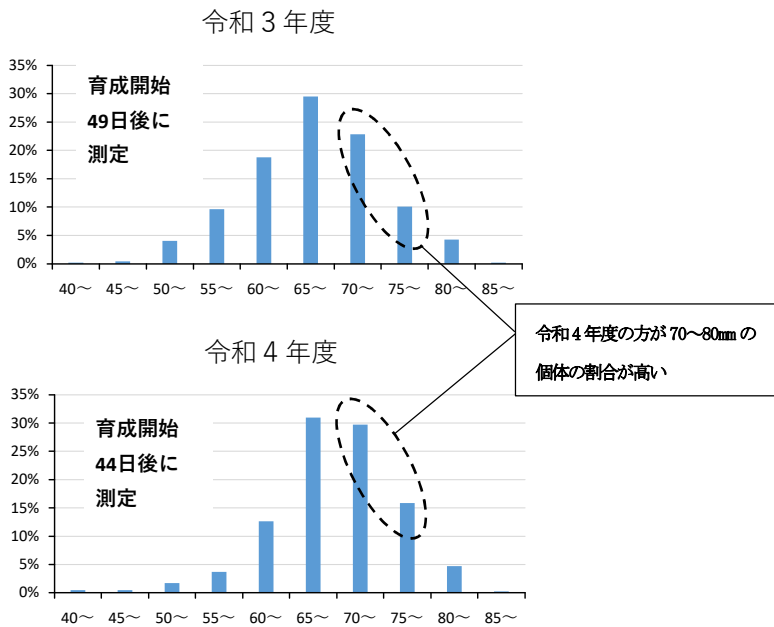


図5 田子の計数時マダイ尾又長比較
(上)令和3年度(下)令和4年度

(角田充弘)